



綜研化学グループ環境報告書

2005

INDEX

ごあいさつ	3
1. 綜研化学グループの概要	4
2. 綜研化学グループの環境方針	5
3. 綜研化学グループの環境目的・目標	6
4. 綜研化学グループの環境マネジメントシステム	7
5. 綜研化学グループの環境負荷	11
6. 綜研化学グループの環境負荷低減活動と実績	12
狭山サイト	14
浜岡サイト	16
7. 綜研化学グループの環境配慮型製品	18

編集方針

この環境報告書は、綜研化学グループの各社が環境に与えている影響や、環境保全活動の実態をご理解いただくために作成しました。編集に当たっては環境省の「環境報告書ガイドライン2003年度版」を参考にしていますが、まだまだ未掌握のデータもあり、また報告項目も不十分かと存じます。今後もグループ内における環境情報の詳細な収集・管理に向けた取り組みを推進するとともに、皆様からのご意見・ご評価を反映して、より充実した報告書作成に努めて参ります。

なお、今回作成した2005年度版では、2004年度版より正確なデータ把握に努めました。その結果、2004年度版で報告したデータを修正した箇所もありますので、ご了承下さい。

対象範囲と対象期間

この報告書は、綜研化学グループの国内各サイト（東京本社、狭山、浜岡、大阪）を対象としています。綜研化学グループとは、綜研化学（株）及び関連会社を指すものです。この2005年度版で掲載しているデータは、2004年度（2004年4月～2005年3月）の実績を集計したものです。一部、比較のために前年度のデータを記載、また将来の課題や目標についても触れています。

お問い合わせ先

綜研化学株式会社

安全環境・品質保証室

〒171-8531 東京都豊島区高田3-29-5

TEL.03(3983)3171 FAX.03(3988)9216

URL:<http://www.soken-ce.co.jp>

ごあいさつ



当社は、1948年秋に「小なりといえども、技術開発により 社会に貢献しよう。」という志を持った8人の創業者たちによって、上野不忍池畔の小さな化学実験工場から始まりました。その志は、「創造、貢献、自己実現」のキーワードを経て、「地球環境の保全」「社会に役立つ革新的製品の提供」等で示されている現在の経営理念に受け継がれています。

どのような事業であれ事業活動は、社会に貢献する側面と負荷を与える側面があります。特に環境に与える影響についての問題は、ケミカルズ事業を営む当社にとって避けて通れない経営課題であります。また、受け継がれた志を実現するために、経済的な活動はもとより、環境保全活動を個別に注力・実施してきました。それらの環境活動を統合・システム化するために、2001年1月から約2年間をかけてISO14001環境マネジメントシステムを導入し、綜研化学グループの国内全事業所で順次認証を取得して来ました。環境活動は、地球温暖化防止や環境汚染防止などの環境保全にとどまらず、環境にプラスになる貢献を追求したいものです。

社会への貢献をうたった創業の精神は、昨今急速に注目され始めたCSR（企業の社会的責任）の趣旨を先取りしているものです。当社は、この社会的責任を従業員全員が実際の行動で果たしたいと思います。さらに、社会に対して、環境を含めてどのような貢献ができるか知恵を絞り、力を合わせて実行したいものです。

「綜研化学グループ環境報告書2005」は、国内の綜研化学グループの2004年度における環境保全活動とその成果をまとめたものです。今後も継続的に改善しながら活動の質と効果を高めていきたいと考えています。

綜研化学株式会社 中島 幹
代表取締役社長

1 綜研化学グループの概要

綜研化学株式会社

所在地 本 社／東京都豊島区高田3-29-5
大阪営業所／大阪市北区堂島浜1-2-6新ダイビル9階
狭山事業所／埼玉県狭山市広瀬東1-13-1

事業内容 粘着剤、微粉体、特殊機能材及び加工製品の開発、製造及び販売

設立 昭和23年9月2日

資本金 13億5,941万円

従業員 223名(2005年4月1日現在、契約社員・派遣社員・パート社員を含む)

狭山綜研株式会社

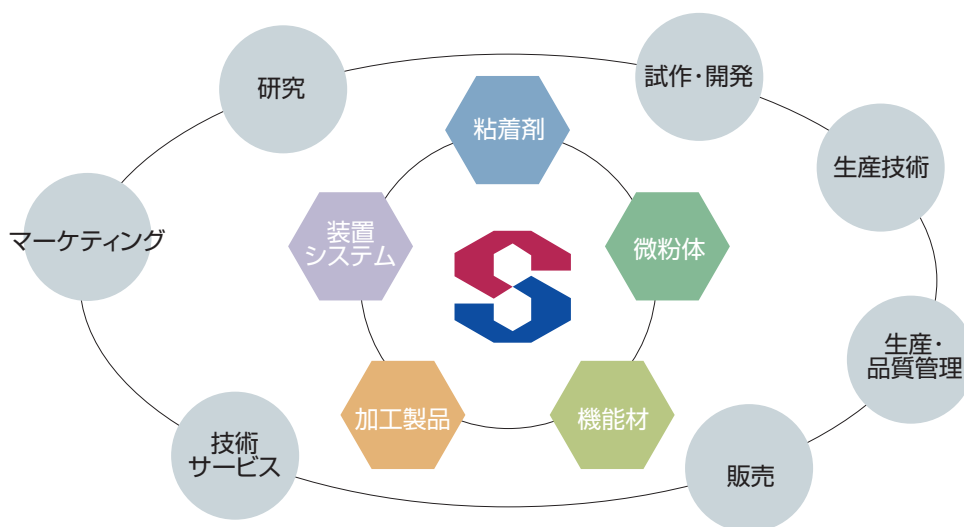
所在地 埼玉県狭山市広瀬東1-13-1

事業内容 粘着剤、微粉体、特殊機能材及び加工製品の製造

設立 平成16年4月1日

資本金 2,000万円

従業員 68名(2005年4月1日現在、契約社員・派遣社員・パート社員を含む)



綜研テクニクス株式会社

所在地 東京都豊島区高田3-29-5

事業内容 ①化学プラントの設計、施工
②化学プラント用装置、自動制御システムの設計、製作及び販売
③熱媒体ボイラーの設計、製作及び販売並びに熱媒体油の販売

設立 平成9年1月18日

資本金 5,000万円

従業員 55名(2005年4月1日現在、契約社員・派遣社員・パート社員を含む)

浜岡綜研株式会社

所在地 静岡県御前崎市池新田8665-1

事業内容 粘着剤、微粉体及び特殊機能材の製造

設立 平成13年3月12日

資本金 2,000万円

従業員 68名(2005年4月1日現在、契約社員・派遣社員・パート社員を含む)

サイトと綜研化学グループ各社との関係

- ①本社サイトとは、綜研化学(株)と綜研テクニクス(株)が活動している東京本社ビルをいいます。
- ②狭山サイトとは、綜研化学(株)と狭山綜研(株)及び綜研テクニクス(株)西東京サービスセンターが活動している狭山事業所をいいます。
- ③浜岡サイトとは、浜岡綜研(株)と綜研テクニクス(株)浜岡サービスセンターが活動している浜岡事業所をいいます。
- ④大阪サイトとは、綜研化学(株)と綜研テクニクス(株)大阪営業所が活動している大阪営業所ビルフロアをいいます。
- ⑤生産サイトとは、狭山サイト、浜岡サイトのことで製造業務を営むサイトの総称です。
- ⑥非生産サイトとは、本社サイトと大阪サイトのことで非製造業務を営むサイトの総称です。

2 綜研化学グループの環境方針

【環境方針】

綜研化学グループは、独創的な研究開発・技術を追求する研究開発型企业として、粘着剤、粉体等の高機能ケミカルズ、それを応用した加工製品及び装置関連事業等の事業領域で、環境保護を指向した製品を開発し、生産・販売活動に努めます。社員一人ひとりが地球環境を配慮した企業活動を行い、環境保全に努め、社会に貢献します。

〔基本方針〕

1. 全員参加のもとに環境保全活動を進め、継続的な改善と環境汚染の予防に努めます。
2. 関連する法令等の要求事項を順守するとともに、高い倫理観と良識をもって社会的責任を果たします。

〔行動指針〕

1. 事業活動や製品が環境に与える影響を評価して、環境目的及び目標の設定と見直しを含め、環境を改善します。
2. 省エネルギー活動を主体とした「地球温暖化防止」と3R(リデュース、リユース、リサイクル)による「資源の循環」に取り組みます。
3. 化学物質による汚染の予防など、環境リスクの低減に努めます。
4. 環境にやさしい製品の開発に努めます。

2005年5月19日

綜研化学株式会社
代表取締役社長 中島 幹

- ・この環境方針を全構成員に周知させ、方針に添った活動を実践・維持します。
- ・当社は、この環境方針を要求に応じて公開します。

3 綜研化学グループの環境目的・目標

2004年度の環境目標と実績概要

綜研化学グループでは、環境目的の課題として以下の6項目を設定し、その達成に向けて取り組んできました。

- (1) 省資源、省エネルギーの推進
- (2) 廃棄物排出の削減
- (3) 環境配慮型製品の開発と販売
- (4) 化学物質の排出抑制

(5) 環境情報の公開

(6) 緊急事態での環境リスク低減に向けた取り組み

2004年度は、上記の環境目的を達成するため、11項目からなる単年度計画を策定し、推進してきました。以下にその目標と実績を報告します。

共通/全社目標	2004年度の環境目標	2004年度の実績概要
(1) 省資源、省エネルギーの推進		
①電力使用量の削減	・原単位*1)で全社使用量3%削減(前年度比)	・電力使用量を原単位で4.0%削減した。
②紙購入量の削減	・前年度比5%の購入量削減	・7.4%の購入量増加となった。
(2) 廃棄物排出量の削減		
③廃棄物削減	・原単位で3%の廃棄物排出量削減(前年度比)	・原単位で4.4%の廃棄物を削減した。
④産業廃水の削減	・産業廃水の社内処理方法の検討	・方法検討を終了し、次年度は設備、コストとともに検討を継続する。
⑤特管廃棄物の削減	・溶剤回収専用装置の設置と運用	・秋期に設置を終了し、試運転を経て適正運用を開始した。(狭山サイト)
⑥ゼロエミッションの検討	・各サイト別にリサイクル化等の施策検討	・資源循環の見地から、ゼロエミッションにこだわらず、3Rの推進を加速することとした。
(3) 環境配慮型製品の開発と販売		
⑦環境配慮型製品の開発	・無溶剤型粘着剤及びテープ製品の品種拡大	・無溶剤型粘着剤5種、無溶剤型粘着テープ2種を開発上市した。
⑧LCAの精度向上と範囲拡大	・粘着テープ製造工程まで範囲拡大	・従来型、エマルジョン型、無溶剤型粘着剤がテープ製品となるまでのLCAを終了した。
(4) 化学物質の排出抑制		
⑨放爆槽*2)からの有機ガス排出の抑制	・反応工程での窒素パージ量の削減検討	・検討終了、次年度は設備とともに検討を継続する。
(5) 環境情報の公開		
⑩環境報告書の作成と公開	・環境報告書のWEB公開	・04年10月に2004年度版報告書をWEBサイト上に公開した。
(6) 緊急事態での環境リスク低減		
⑪廃水の構外流出事故防止(狭山)	・緊急時の排水流出防止用緩衝ピットの設置	・50tの排水緩衝ピット設置を計画し、05年3月に着工、同年6月に完成した。(狭山サイト)

*1) 原単位とは、単位生産量当たりの数値を示します。

*2) 放爆槽とは、反応缶の大気解放管から排出されるガスを捕集し、一時的に貯留する緊急事態用のタンクです。

2005年度からの環境への取り組み

綜研化学グループでは、2004年度までの環境活動の成果を踏まえた上で、近年の社会情勢の変化に対応すべく、2005年度からの3カ年で取り組む主な環境目的と具体的な取り組み課題を、次のように設定しました。

この環境目的は、従来からの課題を継続しつつも、その真の目的を明確にするもので、この目的のもと、グループ全体の目標を定め各サイトではそれぞれに具体的な目標を定めて活動することになりました。

	環境目的	取り組み課題
1	地球温暖化の防止	電気や燃料のエネルギー消費で排出するCO ₂ の削減 焼却処理される廃棄物排出によるCO ₂ の削減
2	資源の循環	社内でのリデュース、リユース、リサイクルによる廃棄物排出の削減 社外での廃棄物のリサイクルによる資源の循環利用
3	化学物質による汚染の予防と環境リスクの低減	揮発性有機化合物(VOC)の排出抑制 狭山事業所での悪臭及び騒音リスクの低減
4	製品の環境配慮	環境配慮型製品の売上比率の向上 危険・有害化学物質含有量削減を目指した商品開発

4 綜研化学グループの環境マネジメントシステム

1.環境マネジメントシステムと環境管理体制

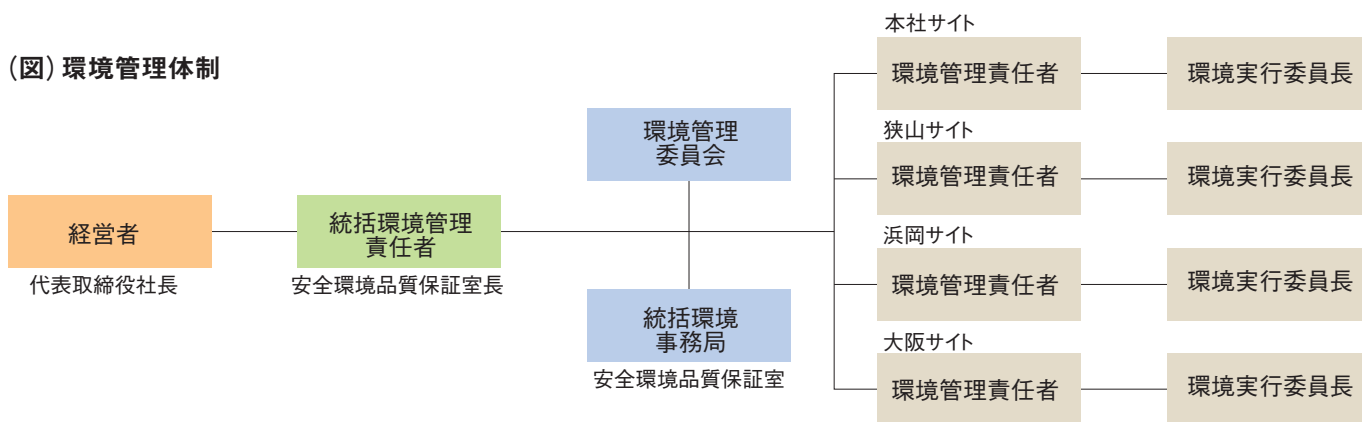
綜研化学グループでは、「地球環境の保全を指向しつつ、社会に役立つ革新的製品を提供する」の経営理念のもと、全部門が環境方針に沿って環境に配慮した活動を行っています。

こうした活動を推進するために設置されたのが「環境管理委員会」で、グループ全体の環境保全活動を推進するため、月1回開催されています。この委員会は本社、狭山、浜岡、大阪の各サイトに設置された「環境実行委員会」の代表者(実行委員長及び事務局)をメンバーとし、グループの統括環境管理責任者として任命された安全環境・品質保証室長を委員長とし、同室担当者が統括事務局の任に当たっています。

また、各サイトには、サイト経営者としてサイトの環境管理責任者、並びに各サイトでの環境活動の推進者として選任された環境実行委員長を置き、サイトに在籍する部門部署の代表者で構成された実行委員会が、サイトの特質に合わせた環境活動を計画し、実践しています。

これらの活動実態をチェックするために、年1回、43名の内部監査員(2004年4月現在)による内部環境監査を実施しています。その結果は、ISO環境規格審査結果やグループ全体の活動実施報告とともに、統括管理責任者による年2回の経営者レビューで報告され、活動の見直しが行われています。

(図) 環境管理体制



2.ISO14001認証取得状況

綜研化学グループは、1997年、ISO9001品質規格の審査を日本化学キューエイ(株)に委託し、1998年にこの認証を取得しました。引き続き、環境への取り組みを国内のグループ会社全体で推進するためのツールとしてISO14001の導入を決定し、次のような経緯で認証を取得し、現在に至っています。

2000年9月	ISO14001導入方針の決定(「①狭山事業所が先行して認証取得、②1年後に国内グループの全事業所に拡大認証」の計画)
2001年1月	狭山事業所でISO14001環境マネジメントシステム導入のキックオフ大会
2002年2月	登録審査受審
2002年3月	狭山事業所の認証取得
2002年4月	国内全事業所への拡大認証に向けて活動開始
2003年2月	拡大審査受審
2003年3月	綜研化学グループ国内全事業所の認証取得完了
2005年2月	国内全事業所で更新審査受審
2005年3月	同更新登録完了



ISO14001登録証

3. 環境保全活動の推進体制

1) 内部環境監査 (統括)

統括環境管理責任者の責任で、年に1回、全サイト・全部門部署を対象とした内部環境監査を実施しています。この監査は他サイトへの交流監査を含む形で行い、監査員のレベルアップとサイト格差の修正を図っています。

【2003年度の内部環境監査の実施状況】

- ・内部環境監査員の登録人数 : 43名 (2004年4月現在)
- ・期日及び監査実施員数 : 2004年10月27～11月18日
計30名
- ・被監査部署単位数 : 28部署単位 (4サイト全部署実施)
- ・監査結果:

指摘のレベル	指摘件数	指摘事項の是正等の処置方法
不適合	5件	環境マネジメントシステム上の不適合で、書面での改善計画を提出して実施 (統括管理事項)
要改善	40件	不適合ではないが、改善が必要な事項で、サイト実行委員長がその改善状況を確認 (サイト管理事項)

上記いずれもシステム通り是正され、05年1月25日までに全て改善されました。

2) 環境管理委員会 (統括)

(目的・役割)

- ・経営者の指示事項を含む統括環境管理責任者の意志の伝達

- ・経営者の指示事項を含む統括環境管理責任者の意志の伝達
- ・グループの環境に関する方向性及び基本的事項の協議、確認と関連事項の決定
- ・環境マネジメントシステムの円滑な運営と内部コミュニケーション
- ・サイトの活動に関する報告とサイト間のコミュニケーション。

3) 環境実行委員会 (各サイトレベル)

(目的・役割)

- ・経営者及び環境管理責任者の指示事項の具現及び統括環境管理責任者の意志の伝達
- ・自サイトの環境に関する方向性及び基本的事項の協議、確認と関連事項の決定
- ・自サイトの内部コミュニケーションと環境マネジメントシステムの円滑運営
- ・部門・部署間の情報交換並びに周知事項及び環境管理委員会への報告事項の確認

4) 部門別安全環境会議 (狭山サイト)

(目的・役割)

- ・労働安全、保安防災及び環境保全活動の一環として、狭山サイトでは部門毎に、関連する事項の伝達、教育・訓練及び関連パトロールを行うことにより、サイト全体の安全と環境保全を推進

4. 環境法令等順守状況

1) 環境法令順守状況の確認

綜研化学グループは、各サイトに適用される環境法規制の調査及び特定の手順を「環境マニュアル」及び「環境関連法規規定」に定めて実施しています。また、これら法規制順守のための監視・測定を「環境測定／監視規定」に定め、確実に実施しています。

各サイトの実行委員長は、この監視・測定の結果を「環境法規等順守状況報告書」にまとめ、半年毎に統括環境管理責任者に報告し、統括環境管理責任者は各サイトの法令順守状況を確認して、経営者に報告しています。

2) 法規制等の違反の有無

2004年度には重大な法規制の違反はありませんでしたが、狭山サイトの排出水で、一般下水道へのpH基準値超過、またサイト内工事での建築廃材について、廃棄物処理法でのマニフェスト管理不

備がいずれも1回ずつありました。浜岡サイトでは他県への廃棄物の持ち出し (廃棄物運搬業者に委託して搬送した物) に関し、その受け入れ先県への届出及び報告遅延が1回ありました。いずれも環境不適合事項として早急に対応し、是正処置を終了しています。

3) 環境に関する苦情や利害関係者からの要求事項

2004年度は狭山で2件の苦情がありました。いずれも近隣の方からのもので、1件はインシネレーター (有機溶剤ガスの大気放出抑制のため、これを燃焼分解する装置) からの臭気、これは煙突からの放出ガスの臭気濃度を測定し、オーバーホールすることによって是正し、当該設備に起因する苦情は無くなりました。また、もう1件は工事用の養生シートが夜半の強風によって破れ、風にはためいた騒音でしたが、これは翌早朝に早速処置しました。

4 綜研化学グループの環境マネジメントシステム

5. 化学物質の適正管理

1) PRTRの取り組み

化学物質は、人類にとって大きな利便性を有する反面、中には生物に有害なものや環境に影響を与えるものがあります。このような特定の有害化学物質の、環境への排出量と移動量を把握し、集計・公表する仕組みをPRTR制度といい、「化学物質排出把握管理促進法」として法制化されています。

当社は、法規制されている特定化学物質の排出量・移動量の把握のみならず、取り扱う化学物質の環境への排出を抑制するため、関連する設備の密閉化や安全な取り扱いに心がけ、化学物質を環境にやさしく管理するように努めています。

2004年度のデータを次に示します。

PRTR対象物質の排出量と移動量 (2003. 2004年度)

単位:kg

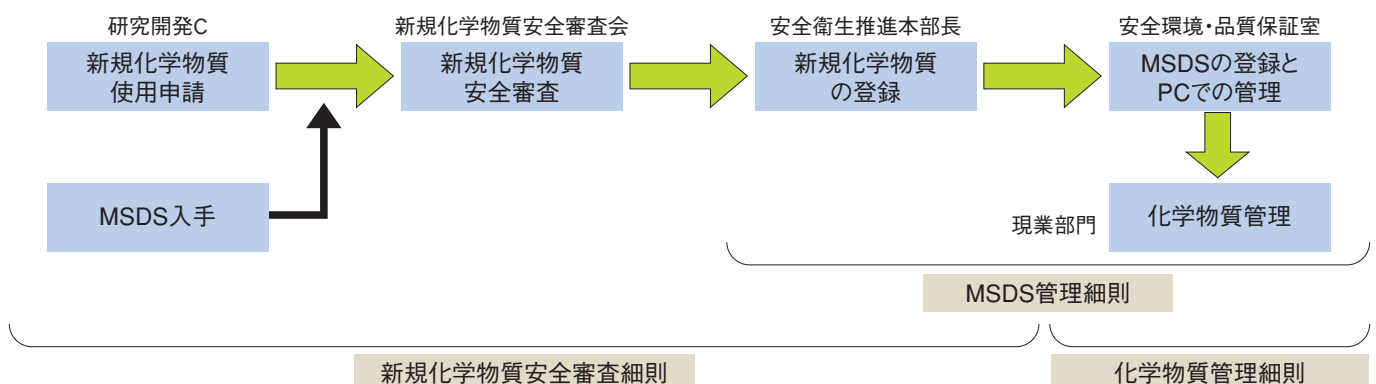
特定化学物質の名称	番号	狭山サイト				浜岡サイト			
		排出量		移動量		排出量		移動量	
		2003年度	2004年度	2003年度	2004年度	2003年度	2004年度	2003年度	2004年度
アクリルアミド	2	0	0	840	730	—	0	—	0
アクリル酸	3	120	130	2,500	1,100	2,200	0	1,900	2,100
アクリル酸エチル	4	3.2	2.2	0	96	340	67	460	340
アクリル酸メチル	6	230	31	840	760	480	270	520	840
アゾビスイソブチロニトリル	13	0	0	0	0	35	0	86	140
エチレングリコールモノメチルエーテル	45	1.4	11.0	98	1,980	11	0	26	28
キシレン	63	0	0	0	0	43	0	67	0
酢酸ビニル	102	1,200	1,200	4,600	4,400	1,300	0	3,100	3,300
スチレン	177	1.7	223	1	220	0	7	0	260
トルエン	227	3,200	449	410,000	313,500	14,000	2,900	210,000	160,000
フタル酸ビス(2エチル-ヘキシル)	272	0	0	0	0	0	0	0	53
メタクリル酸	314	230	0.5	840	1.0	290	88	330	1,400
メタクリル酸2エチルヘキシル	315	1.3	2.3	130	490	0	0	0	0
メタクリル酸ジメチルアミノエチル	318	0	0	0	0	8	5	18	19
メタクリル酸n-ブチル	319	220	160	220	160	27	4	66	57
メタクリル酸メチル	320	59	34.6	3,100	5,300	2,800	1,200	2,400	5,500

2) 新規化学物質の適正管理とMSDS^{*3)}の管理

「新規化学物質」とは、当社にとって新規に取り扱う化学物質をいい、これらは、従来に無い新しい機能を導入して新製品を開発す

る上で、極めて重要な役割を果たす物質です。当社ではこの新規化学物質を使用するに当たってもそれがどのような性質を持ち、どのように管理すれば良いかを明確にし、適正に管理しています。

新規化学物質管理体制



*3) MSDS (製品安全データシート)とは、事業者が化学物質や製品を他の事業者に提供する際に、相手方に対してその化学物質に関する情報を提供するためのもので、性質や性状等が記載されています。

4 綜研化学グループの環境マネジメントシステム

3) 化学物質の大気排出の削減

大気汚染に繋がる化学物質の大気排出を極力抑えるよう、次のような設備を配置運用しています。

①インシネレーターによる有機溶剤の燃焼処理

狭山サイトの粘着加工コーター（1号コーター）では、その乾燥工程で粘着剤に含まれる有機溶剤がガスとして大気に排出されます。

このため、自社製作の有機溶剤燃焼設備「インシネレーター」で有機溶剤ガスを燃焼することにより、化学物質（主にトルエン、酢酸エチル等）の大気排出を削減しています。



インシネレーター

②ホルムアルデヒドの脱臭処理

当社製品N-MAM（N-メチロールアクリルアミド）の製造工程では、VOC（揮発性有機化合物）の一種であるホルムアルデヒドがガスとして発生します。当社では、人体に



スクラバー

有害であり、また強い臭気を持つこのホルムアルデヒドを、アルカリスクラバーで吸着させ、脱臭するとともに、このスクラバーを適正に管理して、環境保全に努めています。

4) 緊急時の排水制限

狭山サイトでは、漏洩事故等の緊急事態で一般下水道に化学品と一緒に流出してしまわないよう、50tの雨水緩衝ピット（雨水+認可済冷却水放流用）を設け、これを適正に運用管理することで、緊急時でも水質を汚染することがないようにしました。（2004年度計画、2005年6月完成）

5) PCBの適正管理

現在、PCB廃棄物として、コンデンサー5基（狭山に4基、本社に1基）と熱媒体油16kgを「PCB特別措置法」に従って適正に保管・管理しています。また、「PCB廃棄物の保管状況等届出書」を都道府県知事に適正に届出しています。



PCB保管場所

6. 保安防災とリスクアセスメント

1) 保安防災

化学物質を扱う化学工場（狭山、浜岡）として、一旦火災・爆発等の事故を起こしますと化学物質の漏洩を含む重大な環境汚染を併発する可能性があります。そこで、保安防災の一環として、事故を想定した緊急事態対応組織である「自衛消防組織」、事前準備の手順としての「保安防災管理規則」「火災予防細則」及び「地震防災細則」を定め、年1回以上の対応訓練を実施しています。

2) リスクアセスメント

労働災害、事故及び環境汚染を未然に防ぐため、潜在するリスクを事前に抽出し、そのリスクの大きさを「発生の可能性」と「結果の重大性」の視点で評価し、重大なリスクを低減するために事前の対策を施してリスクを低くする活動を行っています。

リスクアセスメントは、2001年に狭山サイトで開始してから4年目になりますが、2004年度の活動として、狭山サイトでは「新設・改造設備とその作業でのリスクの抽出・評価」及び「結果の重大性での評価点の高いリスクに焦点を絞った評価の見直し」を重点課題として実施しました。

また、浜岡サイトでは、工場立地の特質に合わせ「東海地震を想定したリスクアセスメント」を実施するとともに、地震防災マニュアルの策定や地震防災教育を行い、地震が発生した場合の被害を最小限にするための準備を行いました。



リスクアセスメント会議

リスクアセスメント事例

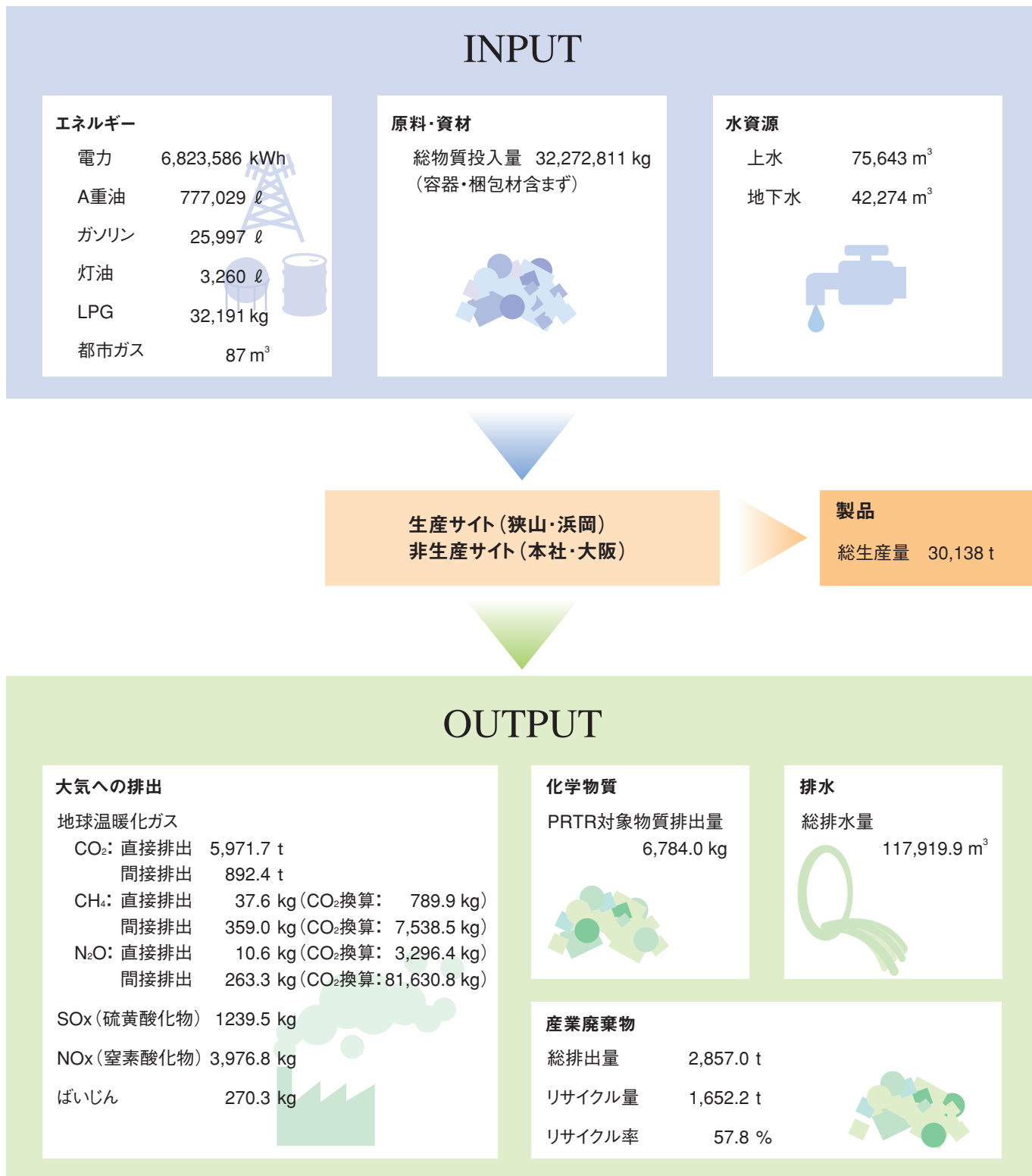
リスクの内容		発生の可能性	結果の重大性	リスクレベル
ホルムアルデヒドガスの脱臭処理用アルカリスクラバーで、アルカリ液がタンクからオーバーフローして漏洩し、側溝に流入する。	初期リスク	3点：時々発生する。 （年に1～2回程度）	4点：側溝から公共用水域にアルカリ液が流入する。	12点（3×4） 許容できないリスク
	原因	供給ラインの電磁弁が頻繁に目詰まりして、作動不良を起こす。		
	リスク低減対策	①電磁弁を自動ボール弁に変更する。 ②液面計のHHのレベル高さを見直す。 ③操作盤の警報の他に、2階にナットライトを設置する。 ④防液堤の排水バルブを常時閉にする。		
低減対策後のリスク	1点：めったに起きない。 （10年に1回程度）	4点：側溝から公共用水域にアルカリ液が流入する。	4点（1×4） 許容できるリスク	

5 綜研化学グループの環境負荷

綜研化学グループでは、粘着剤をはじめ、微粉体、機能材、加工製品、化学装置・システムなど、広範な用途で使用される多様な製品を生産・販売しています。これらの事業活動を展開するに当たっては、化学物質などの原材料、各種のエネルギーや水資源を投入し、

また製品の他に大気や水に環境負荷物質を排出しています。こうした環境に与える負荷を低減し、よりよい地球環境作りに貢献するため、私たちグループでは、各サイトともさまざまな視点からの取り組みを推進しています。

マテリアルバランス (2004年度)



6 綜研化学グループの環境負荷低減活動と実績

環境負荷を低減するため、特に継続的にデータを採取してきたものを中心に、2004年度の成果を記します。努力をしたものの成果

に結びつかなかったものもありますが、これらはみな次年度の活動に生かすべく、取り組みの検討を重ねています。

1. 省資源・省エネルギーの推進

省エネ活動として、全サイトで取り組んでいるのが電力使用量の削減です。照明・パソコンについては、不要照明の間引きや昼休み消灯、トイレや厨房等の未使用時消灯、省エネパソコンの導入などを実施しています。オフィスである東京、大阪はもちろん、生産サイトでは生産計画の改善による節電を実施、また生産に不可欠な冷凍機やエアコンについては、冷凍機の消費電力を削減する省エネ制御装置「Be ONE」を導入したほか、エアコンの共通設定温度の設定などにより、節電を図っています。

また、省資源に向けた取り組みとして、両面コピーや裏紙の積極的利用及び社内LANを活用した電子文書による報告など、用紙使用量の削減に努めています。この他にも、生産サイトでは洗浄溶剤の社内回収再利用により、溶剤使用量の削減を図っています。



省エネ制御装置「Be ONE」



紙ゴミ分別回収ボックス

①電力使用量

2004年度目標：原単位で全社使用量前年度比3%削減

実績：達成

	2002年度	2003年度	2004年度	削減率(%)
使用量(kWh)	6,161,026	6,127,087	6,823,586	-11.37
原単位(kWh/t)	274.6	235.8	226.4	3.99

総使用量では約11%増加してしまいましたが、これは生産量の増加並びに猛暑によるエアコン使用増加の影響によるものでした。しかし、生産計画の合理化等によって、原単位では約4%削減でき、目標も達成できました。

②紙使用量の削減

2004年度目標：全社使用量前年度比5%削減(A4版換算)

実績：未達成

	2002年度	2003年度	2004年度	削減率(%)
使用量(枚数)	1,771,526	1,692,318	1,818,169	-7.44

注)2002年度値は大阪サイト含まず(推定約30,000枚)

裏紙の徹底使用を行いました。活動量の増加にともない、裏紙が足りず、残念ながら約7%の増加になりました。

2. 廃棄物排出量の削減

産業廃棄物の中で、人の健康または生活環境に係る被害を生ずる恐れのあるものを「特別管理産業廃棄物」と呼び区別されています。当社の廃棄物では洗浄用の溶剤などが該当し、その排出量削減のため、社内での回収再利用(リサイクル)や生産計画の改善による洗浄回数の削減(リデュース)に積極的に取り組んでいます。また、その他の廃棄物についても、廃棄物排出量の削減(リデュース)や、分別の推進およびシュレッダーごみの梱包材としての活用(リサイクル)、受け入れた梱包材の再利用(リユース)などを推進しています。



廃棄物集積所



シュレッダーごみの梱包材

①廃棄物の削減

2004年度目標：原単位で全サイト合計前年度比3%削減

実績：達成

	2002年度	2003年度	2004年度	削減率(%)
排出量(t)	2,552.6	2,576.2	2,857.0	-10.90
原単位(t/t)	0.1138	0.0992	0.0948	4.40

注)2002年度値は本社及び大阪サイト含まず(推定約9~10t)

生産量の増加で約11%の増加となってしまいましたが、原単位では約4%削減できました。特に生産サイトでは社内リサイクル量、外部リサイクル量の増加が目立っています。これらの活動については、狭山及び浜岡サイトのページをご覧ください。

3. 環境配慮型製品の開発と販売

綜研化学グループでは、地球環境保全への貢献を果たすべく、環境配慮型製品の開発に注力しています。無溶剤型の「シロップタイプ」を含むエコ・シリーズ粘着剤、粘着加工製品「JETテープ」を筆頭に、製造工程で使用する有機溶剤を削減した粉体製品など、多彩な製品を開発。いずれも市場から高い評価をいただいています。また、製品の環境影響を評価するに当たっては、LCA（ライフサイクルアセスメント）の手法を導入し、今後の製品開発に役立てるようにしました。2004年度はこのLCA評価の範囲を粘着剤だけでなく粘着テープまで拡大し、また精度の向上を行いました。なお、これら環境配慮型製品の詳細およびLCA評価結果は、P18～19に掲載しています。



無溶剤型粘着剤「シロップタイプ」



環境配慮型製品の開発

4. 化学物質の排出抑制

綜研化学グループ生産サイトでは化学品製造メーカーとして、さまざまな化学物質を取り扱っています。このため、特に製造工程から排出される有機ガスの削減には、積極的に取り組んでいます。なかでも放爆槽から排出される有機ガスについては、排出濃度の測定から、その結果を踏まえた低減策の検討、及び技術面での実行可能性の確認、さらには削減目標の策定と低減策の絞り込み、低減策実施のための設備費用の積算など、さまざまな活動を行って、より環境負荷を低減させるべく努力しています。2004年度は反応工程での窒素ガス投入量を減らすことで有機ガスの放出を削減する検討を行いました。



放爆槽（狭山サイト）



放爆槽（浜岡サイト）

①環境配慮型製品の開発

2004年度目標①：無溶剤型粘着剤製品数拡大（目標5製品）

脱VOC型の粘着剤開発

実績：無溶剤型は5製品達成、脱VOC型は12製品完了。

無溶剤型では本年度目標に未達でしたが、着々と製品数を拡大しつつあります。また脱VOC型は10製品以上の開発を終了。これにより、製造時並びに使用時に相当量のトルエン使用が削減でき、また応用範囲もより広くなりました。

注）脱VOC型とは、シックハウス症候群に関連して、厚生労働省で室内濃度指針を定めたホルムアルデヒド他13品種の有機化合物を使用しないものを指しています。

2004年度目標②：無溶剤型テープの開発及び上市

実績：達成

当社製無溶剤型粘着剤を使用したテープは、既に商品化され、溶剤型に替わって採用されました。こちらの製品でも溶剤使用による大気汚染防止に寄与することができました。

2004年度目標③：粉体化工程での溶剤使用量20%削減

実績：達成

実験、試作を重ね、生産時の溶剤使用量を50%減（一部品種）とする仕様を完成することができました。今後の生産での使用量削減が期待されます。

5. 環境情報の公開

2004年度目標：環境報告書のWEB公開

実績：達成

2004年10月に当社ホームページ上に環境報告書を公開しました。

6. 緊急事態での環境リスク低減

2004年度目標：緊急時の排水流出防止用緩衝ピットの

検討と設置（狭山）

実績：ほぼ達成（05年6月に達成）

緊急の漏洩事故などでも、敷地内側溝から漏洩物が雨水とともに一般下水道に流入しないよう、50tの緩衝ピットの設置計画を策定し、着工しました。ほかの設備工事との兼ね合いから工事が遅れましたが、2005年6月に完成しています。また、浜岡では排水管理の見直しを行いました。

狭山サイト



サイトの概要

所在地	埼玉県狭山市広瀬東1-13-1
事業所設置	昭和36年
敷地面積	28,794.5 m ²
構成員	223名(2005.4.1現在、パート・派遣社員含む)
主要生産品	各種工業用粘着剤 機能性樹脂 アクリル樹脂微粉体 粘着加工テープ製品

環境負荷低減への取り組み

2004年度の狭山サイトは、次の項目に取り組みました。前年度からの継続事項もありますが、徐々に成果は上がってきています。

1. 化学物質の排出抑制

(1) 有機ガスの排出量削減

反応缶への窒素パージ量削減の検討を行いました。今後は他の設備設置検討とともに検討から実施へと移行していきます。

2. 環境リスクの低減

(1) 夜間及び休日騒音の低減

騒音の測定を行い、低減策の検討を終わりました。次年度以降でこれらを実施していきます。

(2) 緊急用排水緩衝ピット設置

設計から着工まで行いました。05年度は設置を完了し、適正な運用手順を定めて管理しています。

3. 廃棄物排出量の削減

(1) 特別管理産業廃棄物の削減

研究開発センターでは粉体製造時の溶剤使用を20%削減する仕様に切り替えるよう検討し、いくつかの製品で実施しました。また狭山綜研では溶剤回収の専用装置を開発・設置し、運用を始めました。これによって今後さらなる削減が期待されます。

(2) 産業廃水の削減

外部に処理委託している廃水を社内で最適処理する検討を行いました。次年度も実現に向けた検討を継続します。

(3) 廃プラスチックの削減

2004年度は、従来難しかった粘着剤塗工済みフィルムのリサイクル化について検討し、年度末から実施していきます。

これらの結果は2005年度からの取り組みに反映され、環境負荷を低減する施策を逐次実施していきます。

サイトの著しい環境側面

2004年度は活動及びサービスについて、その環境影響を見直しました。環境影響評価によって、狭山サイトの著しい

環境側面は以下のものが特定されています。

- ①コンデンサーから大気放出されるガスを一時的に貯留するバッファータンク「放爆槽」からの有機ガスの排出
- ②インシネレーター(有機溶剤ガス燃焼分解装置)からの未分解有機ガスの排出

これらは、いずれも定常時に大気汚染と臭気の影響を持つものであり、狭山サイトでは、その低減に向けた取り組みを実施しています。

化学物質の適正管理

狭山サイトでは取り扱う化学物質を適正に管理するため、管理手順書の作成・運用などを通じて、法令に定められた手順を守り、管理を実施しています。また研究開発センターでは、法令で特定された化学物質の使用を極力減らす方針で研究を行っています。

- 化学物質管理促進法(PRTR法)
対象物質：7種類(年間取扱量1t以上のもの)
- 埼玉県生活環境保全条例
対象物質：16種類(年間取扱量500kg以上のもの)

法規制順守状況

狭山サイトでは環境関連法の遵守のため、法定で決められた測定他に自主的な測定を実施しています。

2004年度は一般下水道への排水でボイラーからのpH基準値を超えた廃水の流出が1回ありましたが、直ちに処置を行い、また抜本的な対策として一般下水道には流出しないように改善しました。また、サイト内の危険物自動倉庫建設工事において、 manifests の管理が不十分であることが判明、直ちに不足分を回収し埼玉県に届出しました。これらはいずれも環境不適合として速やかに処理されました。

環境不適合状況

上記以外の環境不適合事項として、スクラバーのオーバーフローによってpH基準上限値の廃水が一般下水道に放流されてしまったことが1回ありました。自主管理基準値を超えていたため、直ちに処理を行い、またスクラバーの点検補修を行って対策を施しました。

狭山サイト

環境負荷低減活動の成果

狭山サイトの取り組みで、数値化できるものを以下に示します。成果の上がらなかったものもありますが、それらについては検証の上、次年度からの目標に生かしています。

①特別管理産業廃棄物の削減

廃棄物削減の一環として、狭山サイトでは特別管理産業廃棄物である有機溶剤の排出を抑える目標を立て、さまざまな活動を行っています。2004年度は溶剤回収装置を設置し運用を始めました。その結果、生産量は増加していますが廃棄される溶剤は逆に少なくなってきたのが分かります。2002年度には1tの生産に対し約44kgの溶剤を廃棄していましたが、2004年度では約27kgと38.2%も削減しました。狭山サイトでは今後も継続して廃溶剤の削減に努めます。

②廃棄物排出量の削減(全廃棄物)

狭山サイトでは2001年度にその削減への取り組みを開始しました。折からの生産量急増という状況でしたが、生産量比では大幅にこれを削減することができました。2004年度は残念ながら増加してしまいましたが、これは生産品目の変遷でプラスチック系の産業廃棄物が増加したことによります。このため当サイトではこの削減に向けて、リサイクル化の推進をはじめ、新たな検討を始めています。

③電力使用量の削減

生産サイトで電力使用量を削減するに当たっては、いわゆる日常の節電努力の他に、いかに合理的な生産を行うかが重要な要素となります。2004年度は生産品目の変遷や新規設備の運用開始などもあり、また一昨年からの冷夏から一転しての猛暑の影響で、残念ながらこれらの努力も追いつきませんでした。これも今後の課題の一つとして、次年度も引き続いて削減に努力します。

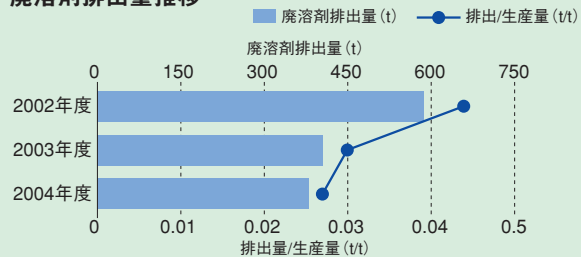
地域との共生

狭山サイトでは、①CS(顧客満足)、②ES(従業員満足)、③NS(近隣者満足)の3つのSをサイト運営の柱としています。特にNSに関しては、周囲を住宅に囲まれているため、近隣の皆様に不安感や不信感を与えることなく、いかに安全に運営するかという命題に絶えず向き合っています。2004年度は騒音及び臭気に対して各1件の苦情をいただきましたが、速やかに対処してその処置を完了しました。

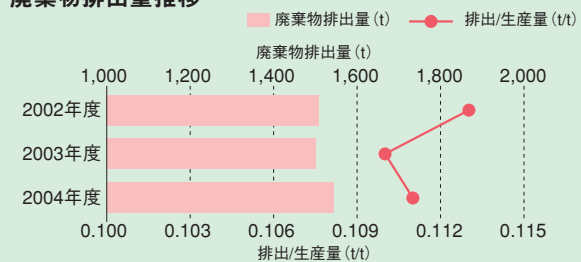
ボランティア活動

狭山サイトでは従業員のボランティア活動を応援しており、地域の環境ボランティア活動にも積極的に参加しています。また環境美化のため、定期的に事業所外周の清掃を行っています。

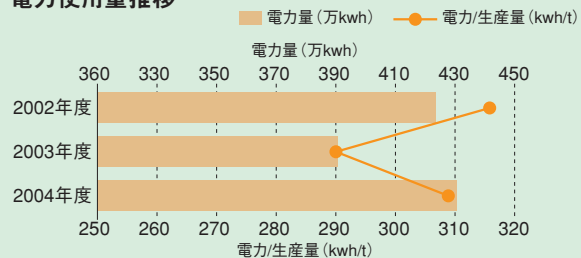
廃溶剤排出量推移



廃棄物排出量推移



電力使用量推移



安全・防災活動

狭山サイトは、化学工場という特性から、事故等により緊急事態を起こした場合には、環境や地域に重大な影響を及ぼす事態を引起す懸念を抱えています。このため、各設備毎の運用手順書の他にも、考えられる緊急事態への対応手順書を作成し、定期的に見直しを行っています。またこれらの緊急事態を想定して、年に2回その対応訓練を行っています。



ボランティア活動



防災訓練

浜岡サイト



サイトの概要

所在地	静岡県御前崎市池新田8665-1
事業所設置	平成4年
敷地面積	37,205 m ²
構成員	70名(2005.4.1現在、パート・派遣社員含む)
主要生産品	工業用粘着剤 機能性樹脂 アクリルパウダー中間体 特殊接着剤

環境負荷低減への取り組み

浜岡サイトは中部電力浜岡原子力発電所に隣接する池新田工業団地に位置しています。活動の中心である浜岡綜研(株)は、綜研化学(株)浜岡事業所が分社独立して2001年4月に操業を開始した当社グループの製造担当会社で、粘着剤、特殊機能材、粉体中間製品を生産する化学工場です。2003年3月に環境規格ISO14001を取得し、綜研化学グループとしての環境基本方針や行動指針に則った環境保全活動や環境負荷低減に取り組んでいます。

2004年度、浜岡サイトでは下記の項目に取り組みました。いずれも前年度からの継続事項ですが、成果は着実に上がってきています。

1. 廃棄物排出量の削減

溶剤の回収再利用の推進並びに紙資源の有価物化によって削減を行いました。次年度はさらに溶剤の再利用量を増やしてゆく予定です。

2. 電力使用量の削減

通常の節電努力の他に、電力削減のためにより合理的な生産計画を組むことで余剰な電力使用を押さえました。

3. 排水管理の整備見直し

今後の公共下水道整備に伴う管理の第一段階として、3ヶ月毎の自主測定を行うようにしました。

4. 環境側面の見直し

当サイトの環境側面を見直し、最新の状況を評価しました。これらの結果を踏まえ、上記の項目以外で今後取り組むべき課題として、浜岡サイトではフォークリフトの燃料転換によるCO₂削減等を挙げています。



リユース準備されたサンプル瓶



製造現場での分別例

サイトの著しい環境側面

2004年度はサイトの活動及びサービスについて、その環境影響を見直しました。その結果著しい環境側面としては以下の一つが特定されました。

①粘着剤生産時の洗浄工程で使用された廃溶剤の排出定常時の活動において廃棄物排出という環境影響をもたらすものであり、浜岡サイトでは、その低減に向けた取り組みを継続して実施しています。

化学物質の適正管理

浜岡サイトでは取り扱う化学物質を適正に管理するため、法令に定められた手順を守り、管理を実施しています。

●化学物質管理促進法(PRTR法)

対象物質:13種類(年間取扱量1t以上のもの)

法規制順守状況

浜岡サイトでは環境関連法順守のため、法的及び自主的な監視・測定を実施しています。

2004年度は、他県への廃棄物の持ち出し(廃棄物運搬業者に委託して搬送した物)に関し、その受け入れ先県への届出及び状況報告遅延が1回ありました。発見時点で速やかに是正対応し、更に手順を見直すなどの処置を施しました。

環境不適合状況

2004年度は、大きな環境不適合はありませんでしたが、地下タンクの消防署検査において掲示板不鮮明、マンホール内の雨水(前日の降雨による)除去等管理上の指摘事項が有り、これを不適合と判断し翌日に適正な処置を完了しました。

浜岡サイト

環境負荷低減活動の成果

浜岡サイトの3年間の取り組み結果を次に示します。サイトの生産量は年々増加していますが、生産量原単位での削減は着々と成果が上がっています。

①特別管理産業廃棄物削減

浜岡サイトの廃棄物の約95%を占めるのが特別管理産業廃棄物です。従って、これを減らすことが当サイトの最大の使命となっています。適正な生産計画や再使用によって、原単位は2002年度の0.110から0.077へと30%も減らすことができました。今後も、さらなる削減に向けて取り組んでいきます。

②特管以外の廃棄物の削減

特管廃棄物の占める割合は前述のように大きいですが、その他の廃棄物についても削減努力を続けています。2004年度の活動では、金属類はもちろん、紙やプラスチック類もできる限りリサイクル化しました。また当年度の試みとして、返却されたドラムは、厳しくチェックした上で、そのまま利用できるものについては洗浄依頼しないようにしました。これは当サイトの数字には表れませんが、ドラム洗浄に必要な溶剤を約20%削減できたこととなります。

③電力使用量の削減

プラントの増設や24時間稼働などで、浜岡サイトの生産量は急増しています。このため生産に用いる電力量も増え続けていますが、これも廃棄物と同様に生産量をもとにした原単位では、2002年度の値から約24%減らすことができました。今後も日常の節電努力はもちろん、可能な限り省エネ生産を目指します。

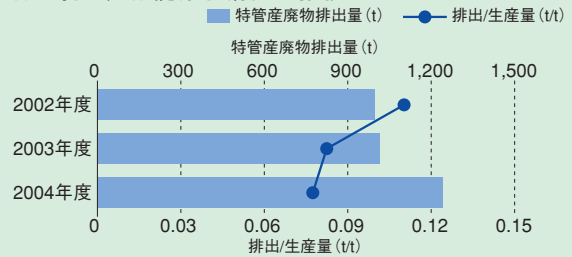
地域貢献活動

浜岡サイトでは、地域が推進する環境保全活動「新野川・箆川の自然を守る会」に参加し、「鯉の稚魚放流」、「空き缶拾い」などの活動を通して、地域の自然保護・環境美化に貢献しています。

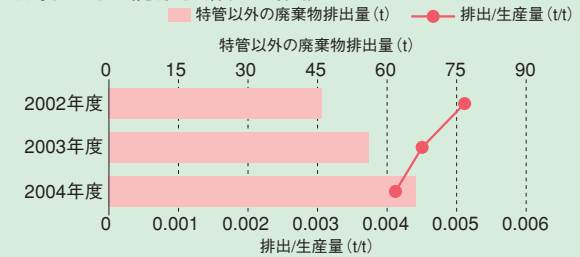


ボランティア活動

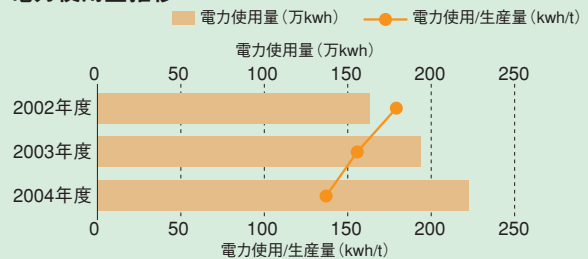
特別管理産業廃棄物排出量推移



特管以外の廃棄物排出量推移



電力使用量推移



安全・防災活動

緊急事態の対応手順書を作成し、全サイト構成員の教育を行っています。また緊急事態に備え、1年に1回総合防災訓練を実施しています。



防災訓練



防災訓練

7 綜研化学グループの環境配慮型製品

綜研化学グループの主力製品である粘着剤や機能性樹脂の多くは、トルエンや酢酸エチル等の有機溶剤を含有しています。なかでも世の中でもっとも多く使用されている溶剤型粘着剤は、製品製造時並びに粘着加工する段階で加熱・乾燥されることによって、溶剤を有機ガスとして大気中に放出したり、或いは揮発した溶剤ガスを焼却処理する必要が出てきたりと、負荷の大小はあるものの環境への影響は避けられませんでした。地球環境を守るため、これら有機溶剤を使用しない粘着剤の開発

が望まれておりましたが、当社は長年蓄積した研究開発の技術を駆使して、有機溶剤を含有しない粘着剤や機能性樹脂の開発に成功。それぞれエコ・シリーズ粘着剤「シロップタイプ」、無溶剤型機能性樹脂「アクトフロー」として販売しています。さらに、水を媒体とするエコ・シリーズ粘着剤「エマルジョンタイプ」や、シロップタイプ粘着剤を使用した肉厚両面テープ「JETテープ」など、多彩な環境配慮型製品を提供しています。

綜研化学グループの主な環境配慮型製品

1.エコ・シリーズ粘着剤：シロップタイプ

シロップタイプは、有機溶剤を使用せず、アクリルポリマーをモノマーで希釈した粘着剤で、UV(紫外線)照射によりモノマー分をポリマーに変換して使用する高性能粘着剤です。このため、その製造工程からお客様での粘着加工製品製造工程、更に廃棄段階まで有機溶剤ガスを発生することがありません。



2.エコ・シリーズ粘着剤：エマルジョンタイプ

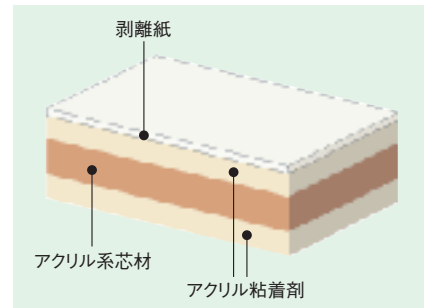
エマルジョンタイプは、水を媒体とした粘着剤です。以前から良く知られたタイプですが、環境保護の観点から、近年脚光を浴びています。当社では各種の用途に応じた特長ある製品を取り揃えており、またお客様のご要望に合わせた商品の開発も行っております。

品名	用途または特徴
E-03H	両面テープ用の強粘着性、高不揮発分タイプです。
E-03V	包装に使用されるクラフトテープ用の粘着剤です。
E-1000	両面テープやウレタンフォームに使用される粘着剤です。
E-1054G	強粘着力を示し、難燃処理を施した粘着剤です。
E-1054K	配送ラベル用で、低温でも接着性のある粘着剤です。
E-3365	ポリエチレンやポリプロピレンなどの素材にも接着します。
E-3365L	スクリーン塗工用に用いられる乾燥性の良い粘着剤です。
RE-339	剥がしても再度接着できるタイプの粘着剤です。

3.エコ・シリーズ粘着加工製品：「JETテープ」

強接着肉厚両面テープ「JETテープ」は、低VOC(低揮発性有機化合物)を実現したテープで、接着強度のみならず、強靱性、耐久・耐候性、低温・耐熱性に優れた特徴を持っています。製造時に溶剤を使用しないので、製造から廃棄段階まで有機溶剤ガスの発生はなく、溶剤臭もない環境にやさしい粘着加工製品として着々と種々の分野・用途に展開を広げています。

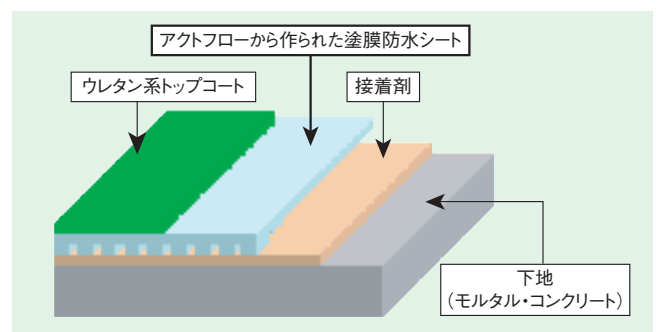
JETテープの構造



4.無溶剤機能性樹脂：「アクトフロー」

アクトフローは、無溶剤のアクリル系液状樹脂です。その製造工程から有機溶剤を用いないため、特にVOC対策製品に利用されています。例えば、下図に示した建築用塗膜防水シートは、アクトフローを可塑剤として用いたアクリル樹脂シートで、ビル屋上などの防水工事に利用されています。また、アクトフローは環境ホルモン物質を含有していませんので、環境ホルモン物質の疑いのあるフタル酸系可塑剤の代替品としても期待されています。例えば、ポリ塩化ビニルやその他のプラスチック用の可塑剤として、玩具・建材等に用途開発が進められています。

アクトフローを用いた塗膜防水シートの施工例



LCA評価に基づく製品開発の取り組み

LCAとは?

LCAとはライフサイクルアセスメント(Life Cycle Assessment)の略で、直訳すると(製品やサービスなどの)一生の評価ということになります。具体的には製品の製造段階だけではなく、製品を構成する原材料の採掘段階から、製品を構成する部品・材料の製造段階、製品の出荷から使用者に届けられるまでの流通段階、そして使用者による製品の使用とそれに伴う修理・メンテナンスを含む使用段階、さらに使用者の手を離れた製品が再使用・リサイクル・廃棄される処分段階のすべてにおいて、環境に与える影響を分析し、総合評価する手法です。この手法を用いることにより、定量的・客観的に環境負荷を把握することができるため、効果的に環境負荷を削減することが可能になります。

当社では今後の商品開発にLCA手法を取り入れるべく、まずは現行製品のLCAを行って、今後の指針としています。

当社環境配慮型製品のLCA

綜研化学グループの環境配慮型製品の中からエコ・シリーズ粘着剤のシロップタイプとエマルジョンタイプについてLCAを行いました。昨年度は粘着剤製造までのデータでしたが、本年度は各製品の原料購入から粘着剤をコーター(塗工機)によってフィルムに塗布し、粘着テープなどの粘着加工製品となるまでをLCAの実施範囲と設定し、評価しました。

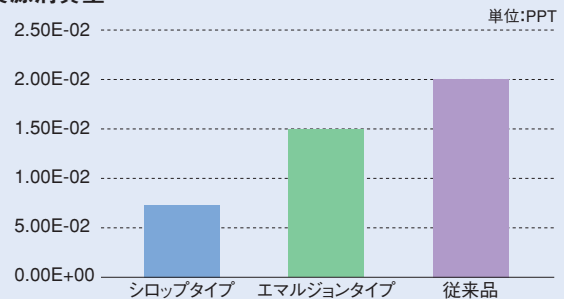
①資源の消費、②地球温暖化への影響(CO₂排出量)、③エネルギーの消費を評価項目として、従来品の溶剤タイプと比較を試みています。

右のグラフは、それぞれの粘着剤1kgを用いて粘着加工製品を製造した時(粘着剤を製造し、にそれを使って粘着加工製品を製造)の比較です。各項目ともグラフの棒の高さが低いほど環境負荷が少ないことを表しますが、当社の環境配慮型製品はすべての項目で環境負荷が少ないことが確認できます。特にシロップタイプは従来品(溶剤タイプ)と比べCO₂排出量80%減、エネルギー消費量70%減となっており、「環境負荷低減に配慮した」製品開発を実現できていることが判ります。

①資源消費量比較

天然資源の埋蔵量のどの位を消費したことになるかを率で表しています。

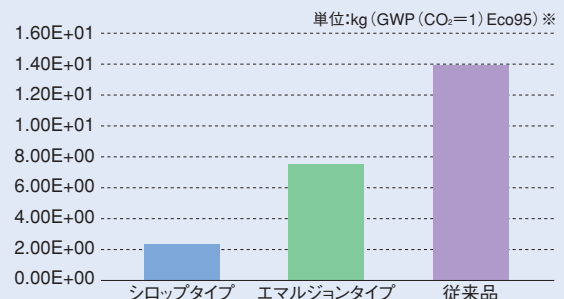
資源消費量



②地球温暖化への影響度比較

CO₂などの地球温暖化ガスをどの位排出するかを表しています。

地球温暖化への影響



※GWP : Global Warming Potential (地球温暖化指数)

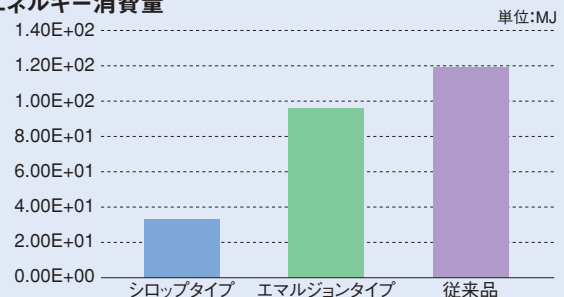
Eco95:Eco95:統合手法の一つであるエコインディケータ95の地球温暖化に関する特性化係数を使用していることを意味します。IPCC (Inter-governmental Panel on Climate Change:気候変動に関する政府間パネル)の1992年報告書の100年値(積算期間を100年として算出した数値:今回の計算では以下の3種の指数でCO₂換算)と同一です。

CO₂=1 / CH₄=11 / N₂O=270

③エネルギー消費量比較

粘着加工製品製造までどの位のエネルギーを消費するかを表しています。

エネルギー消費量



編集後記

ようやく2005年度版環境報告書を公開することができました。昨年度の公開後、貴重なご意見も頂き、有り難うございました。

公開2年目となる今年度は、より正確なデータ把握に努めたつもりです。まだまだ内容的には不十分であり、またデータに関しても採取されていないものもありますが、今後もより充実した環境報告書を作成し、公開してゆく所存です。

今後も一層のご意見を賜りますようここにお願い致します。

アンケートのお願い

綜研化学の「環境報告書2005」について、ご意見・ご感想をお聞かせ下さい。

送付先・お問い合わせ先 **綜研化学株式会社 安全環境・品質保証室**
〒171-8531 東京都豊島区高田3-29-5
TEL.03(3983)3171 FAX.03(3988)9216
URL:http://www.soken-ce.co.jp
E-mail:hinpo@soken-ce.co.jp

Q1:この環境報告書をお読みになって、どのようにお感じになりましたか?

- 分かりやすい 普通 分かりにくい
(具体的に:)

Q2:この環境報告書の内容について、どのようにお感じになりましたか?

- 充実している 普通 足りない
(具体的に:)

Q3:綜研化学の環境への取り組みについて、どのように感じられていますか?

- 評価できる 普通 評価できない
(具体的に:)

Q4:特に印象に残った点、興味をお持ちになった点はどこですか?(複数選択可)

- ごあいさつ グループ概要 環境方針 環境目的・目標
 環境マネジメントシステム 環境負荷 環境負荷低減活動と実績
 狭山サイト 浜岡サイト 環境配慮型製品

Q5:環境報告書・環境活動全体について、ご意見・ご要望がありましたらお願いします。

--

ご協力ありがとうございました。お差し支えなければ下記にもご記入ください。

お名前		性別(男・女)	年齢	
ご住所	〒			
ご職業(勤務先)		部署・役職名		
TEL		FAX		
E-mailアドレス				

※お寄せいただいたご意見、ご感想は、次回の報告書作成にあたり参考とさせていただきます。
アンケート回答及び回答いただいた方々の個人情報については、上記の目的以外の使用、第三者への開示・提示は致しません。